

1. めざす学校像

- 建学の精神「力の教育」を継承、発展させていく「伝統と革新」の学校。
- 建学以来の「自学主義」に基づき、児童自らが学ぶ力を育てる学校。
- 建学以来のネイティブ教員による英語授業を継承・発展させ、グローバル社会で活躍できる人物を育成する学校。
- 臨海学舎をはじめとした多くの伝統行事を実施し、体力や生活力を育てる学校。
- ホンモノの教育を志向し、能や歌舞伎などの日本の伝統文化への理解を深める学校。

2. 中期的目標

- (1) 教育力の強化。
 - 教員の授業実践力向上。
 - 児童の学力保障、進路保障体制の確立。
 - 生活指導の徹底。
 - 放課後教室（児童の預かり）の拡充。
- (2) 組織力の強化。
 - 校務分掌の改変、整備。
 - 保護者との連携の強化。
 - 勤務時間管理の実施。
- (3) 財務基盤力の強化。
 - 児童定員の確保。
 - 併設中学校への進学率向上。

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価の結果と分析

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価の結果と分析
<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> • クラブ活動は活発に行われている。 • 七夕、臨海、体育祭、音楽会などの学校行事は活発である。 • 体力テスト、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。 • 他国の歴史・文化の理解、異文化交流な 	<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校は、充実した学校行事を送っており、自主性の育成に役立っている。 • P T A行事や授業参観は、適切な頻度で行われ、学校の様子をうかがい知る機会として、機能している。 • 学校給食は、衛生的で、栄養のバランス

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価の結果と分析
<p>ど国際理解に対する教育活動を取り入れている。</p> <p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> • 幼小中教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。 • 教員全体が、評議員会、理事会の役割や機能について理解している。 • 教員全体が、学校の経営指標と財務状況について理解している。 	<p>面において充実している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校は、アレルギー児童に対して保護者への事前調査、教員の研修などを行い、対応食の提供や緊急時の対応について準備している。 <p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校は、中学校進学に関する情報を提供するなど、進学指導を適切に行っている。 • 幼稚園と小学校は連携できている。 • 小学校と中学校は連携できている。

※ 学校関係者評価は、全保護者を対象にアンケート調査を行っており、その結果を分析している。選択肢式だけではなく、自由記述欄も設けており、その結果も分析し、全教員に周知するとともに、関係部署で対策を講じるようにしている。なお、アンケート結果は、HPに公開している。http://www.tezukayama.ac.jp/grade_school/for_parents/img/ankert2016.pdf

学校関係者評価委員会からの意見

- 幼・小・中の連携について

幼・小・中の連携担当者を決めてはどうか。各部署で情報共有した上で、意見交換も行き、方針を統一してほしい。

〔改善〕連携担当や、連携の会議などの設置を検討する。
- 進学指導に関して

内部中学校進学に関わる情報が少ない。

方向性を一本化した上で、学校からの進学に関わるアナウンスを4年生の12月ごろから始めてほしい。

〔改善〕すでに進路ガイダンスの実施時期を早め、4年生の1学期から実施している。
- 学院の今後の方向性について

帝塚山学院の強みを創造してほしい。学院は幼稚園から大学までと一貫した法人で、100年を超える伝統と実績がある。これからの時代、私立として最も強化すべきは、幼稚園から大学までの連携力（一貫教育体制）ではないか。学院全体で一貫した理念を共有し、現場に浸透させ、連携を強化してほしい。

〔改善〕学院の教育理念を再確認し、教育方針を保護者に伝えていきたい。

4. 本年度の取組内容、及び自己評価

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	教員の授業実践力向上。	研修会、研究授業の充実。	実施回数(頻度)年間8回程度。 自己評価アンケートの結果の高評価が80%以上。	初任者研修については、月1回の頻度で実施。自己評価アンケートにおいても、「初任者研修」については、100%が高評価。順調に実施できているので、今後も継続する。 校内の研究授業については、のべ29時間実施した。自己評価アンケートにおいても「教員の資質向上」に関しては、約97%が高評価であった。今後、継続するとともに、研究授業の方法等について整備が必要。
	児童の学力保障、進路保障体制の確立。	学年ごとに補習を実施するなど学力の保障を図る。 各種検定の取得目標の設置と、指導法の策定。	自己評価アンケートの結果、高評価80%以上。 学校関係者評価の結果、高評価80%以上。	自己評価アンケートの「学習指導について」は、約90%が高評価。学校関係者評価では、「学校は基礎学力をつけている」という設問に87%が高評価。ただし、「今後、もっと積極的に取り組んでほしい教育活動」としては45%の保護者が「学習指導の充実」を挙げており、学習指導のさらなる充実が必要。 各種検定については、今後、実際に受検した児童の結果をうけて、指導法を改善していく。
	生活指導の徹底。	挨拶の指導の徹底。 生徒指導部を中心とした情報の集約と、全教員で情報を共有して一致した生徒指導の実施。	自己評価アンケートの結果、高評価80%以上。 学校関係者評価の結果、高評価80%以上。	自己評価アンケートの「生活指導について」は、低評価が25%を超えていた。また学校関係者評価においても、「積極的に取り組んでほしい教育活動」として、「生活指導(しつけ)の充実」を挙げた保護者が30%近くであった。組織的な生徒指導の方法の確立が必要。

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
	放課後教室（児童の預かり）の拡充。	放課後教室のニーズの把握と、長期休暇中の実施についての検討。	ニーズの把握と、実施期間延長に向けての進捗状況。	受験児の保護者へのアンケート調査等から、放課後教室へのニーズの高まりを把握。次年度から、長期休暇中の放課後教室を試験的に実施していく。
組織力の強化	校務分掌の改編、整備。	校務分掌部長会議を設定。部会間の連携と、職員会議の円滑な運営を図る。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。	自己評価アンケートの「校務分掌」に関しては、70%が高評価であったが、前年度比で2ポイント減であった。ただし、「会議の有効性」については、高評価 58%は、前年度比 38ポイント増であり、一定の組織力強化は達成できた。次年度以降、さらに適正な分掌構成を築く必要がある。
	保護者との連携の強化。	個人懇談の充実。 参観授業の充実。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。 学校関係者評価の結果、高評価 80%以上。	自己評価アンケートの「授業公開状況」については、80%超が高評価であった。学校関係者評価では、「PTA行事や授業参観等は、適切な頻度で行われ、学校の様子をうかがい知る機会として機能している」の高評価が 96%。「学校は、教育方針や教育実践をホームページ・配布物等でわかりやすく伝えている」の高評価が 90%超であった。保護者との連携は一定程度達成しているものと見なせるが、今後、一層の連携強化を図る。
	勤務時間管理の実施。	教員の業務内容、負担の把握。 適正な人事配当計画の策定。	自己評価アンケートの結果、高評価 80%以上。	自己評価アンケートの「校務分掌」について低評価が 30%弱、「校務委員会」について低評価が 20%弱であった。引き続き、組織配置の適正化を図る必要がある。 人事配当計画については策定しており、順次、必要に応じて採用の予定。

中期的 目標	本年度の 重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
財務基盤力の強化	児童定員の確保。	募集広報活動の充実。	定員充足 100%。	定員114名のところ108名入学。(充足率94.7%)
	併設中学校への進学率向上。	内部進学に関する情報の提供。 進路ガイダンスの実施。	内部進学率。男子30%、女子70%。	男子内部進学率30%（前年度22.9%）。 女子内部進学率71.7%（前年度75.6%）。 微増、微減はあったものの全体として大きな変化はなかった。進路ガイダンス等の一層の充実と、進路保障のための補習等を実施していく必要がある。

※ 自己評価アンケート、及び学校関係者評価の「高評価」「低評価」とは、それぞれ各設間に対して「達成できている」「ほぼ達成できている」の2つを合わせて「高評価」、「あまり達成できていない」「まったく達成できていない」の2つを合わせて「低評価」とした。